

新型コロナウイルス感染症への対応下での 労働実態・教育研究状況アンケート 報告

期間：2020年9月18日～2020年10月31日

回答数：教員 54名

事務職員・技術職員 41名

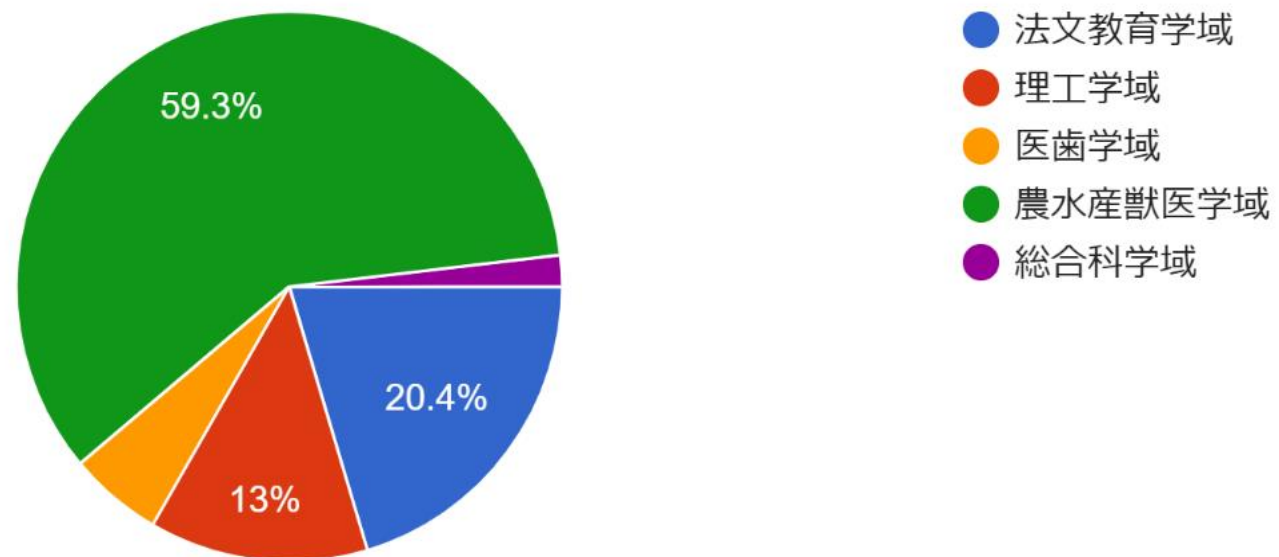
鹿児島大学教職員組合

2020年11月2日

I あなたの所属等について(教員)

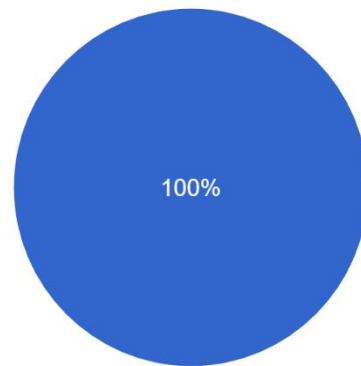
1. 所属 (単一回答)

54 件の回答



2. 雇用形態 (単一回答)

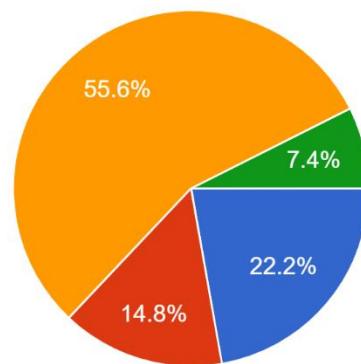
54 件の回答



- 常勤
- 非常勤

3. 専門分野等 (単一回答)

54 件の回答

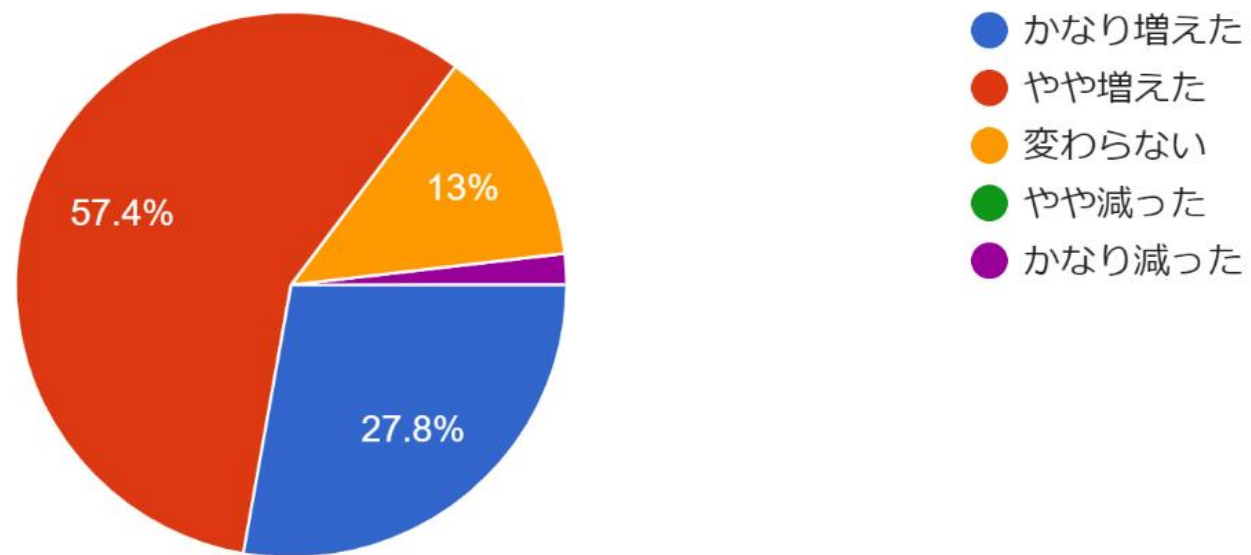


- 人文社会科学・芸術・教育系
- 理工学系
- 農林水産学系
- 医歯薬保健学系

Ⅱ 業務負担全般について

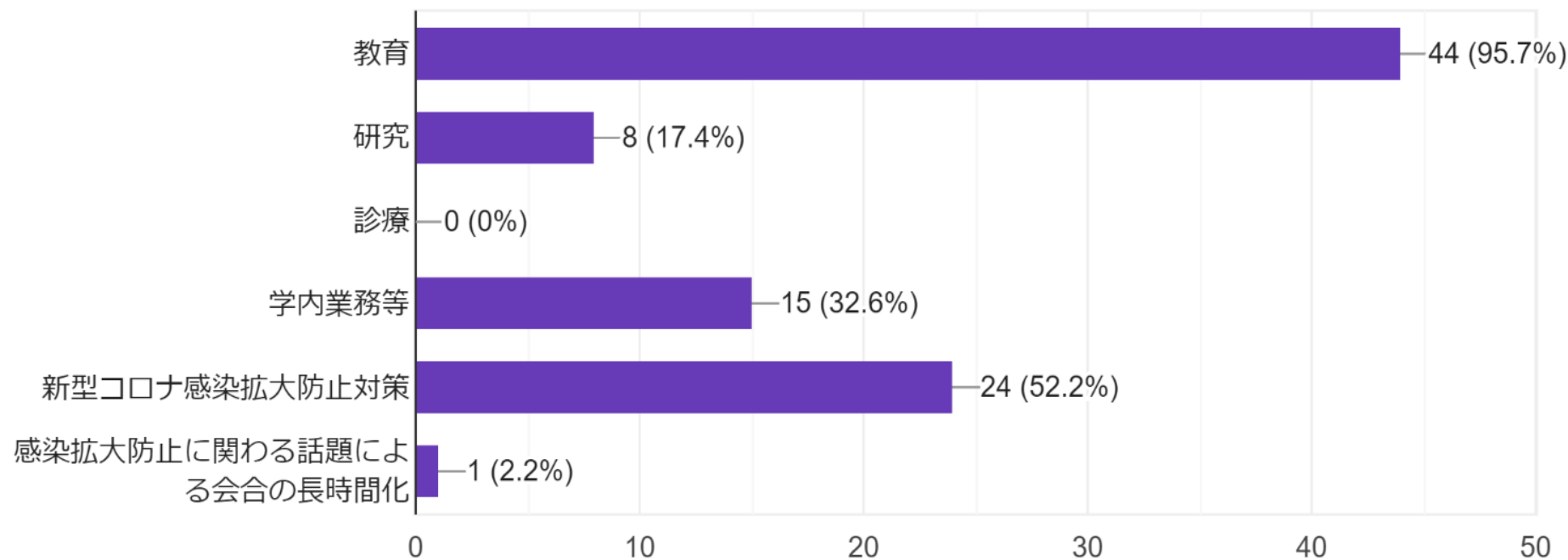
4. 新型コロナウイルス対応下での教育・研究・診...担は、例年と比べてどうでしたか？（単一回答）

54 件の回答



5. 質問4で「かなり増えた」「やや増えた」と回答された方で、業務負担のうち特に増えている内容は何ですか？（複数回答可）46 件の回答

5. 質問4で「かなり増えた」「やや増えた」と回...特に増えている内容は何ですか？（複数回答可）
46 件の回答



・質問5の回答理由

- 増えた理由(増えた、やや増えたとの回答から)
(教育)

- ①オンライン授業への対応に時間を割いた。(教材づくり、zoom授業の作成、オンデマンド化等)
- ②卒論、修論、博論指導に手間と時間がかかる。
- ③実験・実習における感染防止対策
- ④ソーシャルディスタンスを保つことや感染防止のための消毒等などの授業準備
- ⑤野外実習の実施の際の移動制限に対する検討
- ⑥慣れない機器への対応へのストレス

・質問5の回答理由

(学内の仕事)

- ①zoom会議の設定や資料作りに時間がかかる。
- ②会議が増えた。
- ③オンライン授業の準備・対応の担当となったため負担増

(その他)

- ①オンライン授業の内容で「課題提出型」だけで済ます教員とzoom＋オンデマンドまで行っている教員とでは、その負担において雲泥の差があり、不公平感と学生の不満をどうするか。
- ②感染症対策として過剰な方法が指示され、それへの対応が負担となっている。

6. 在宅勤務における業務遂行は例年の通常業務と比べてどうでしたか？（単一回答）

53 件の回答



・質問6の回答理由

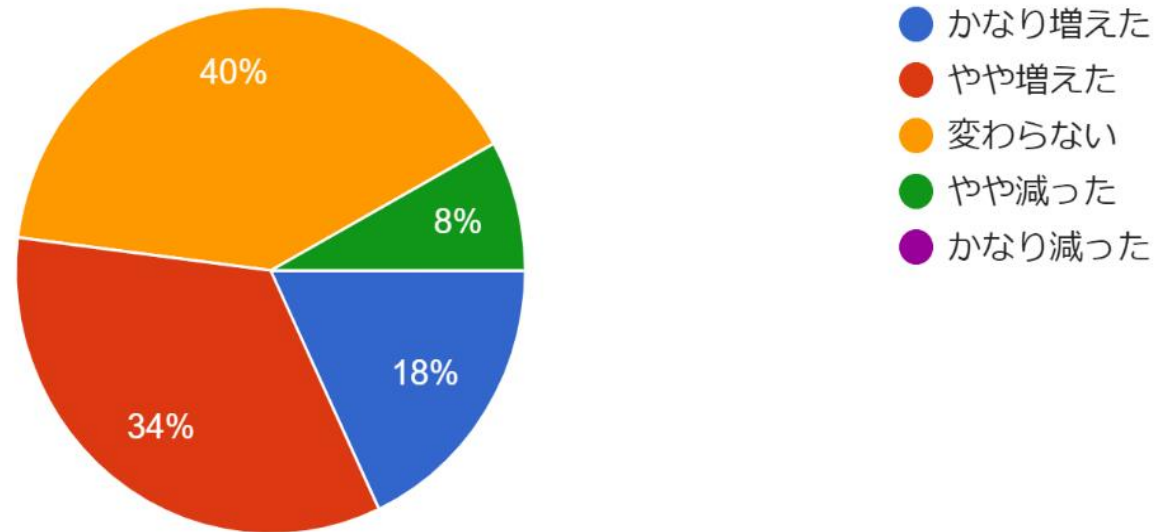
- ・対応できた理由(スムーズに対応できた、通常業務と同じとまではいかないが対応できた)
 - ①無駄な会議が減り、会議の長さも短くなり、対面会議のストレスから解放された。
 - ②在宅で気を使う以外は職場と変わらなかった。
 - ③仕事量が減った。

- ・滞りが生じた(やや滞りが生じた、かなり滞りが生じた、在宅勤務していない)
 - ①資料や研究データ等が研究室にあるため難しいところがある。
 - ②リモートワークの環境が整っていなかった。
 - ③4年生と大学院生がいるので在宅では無理だった。
 - ④自宅から学内システムにアクセスできないことや書類の一部をメールで提出できない。
 - ⑤業務用PCで管理している実験データを研究室外に持ち出せない。
 - ⑥自宅でも対応できるように自費で設備を整えた。
 - ⑦研究室は個室なので、在宅より大学での勤務が効果的

7. 新型コロナ対応及び在宅勤務における時間外・深夜・休日勤務は例年の通常勤務と比べてどうでしたか？（単一回答）

7. 新型コロナ対応及び在宅勤務における時間外・...の通常勤務と比べてどうでしたか？（単一回答）

50 件の回答

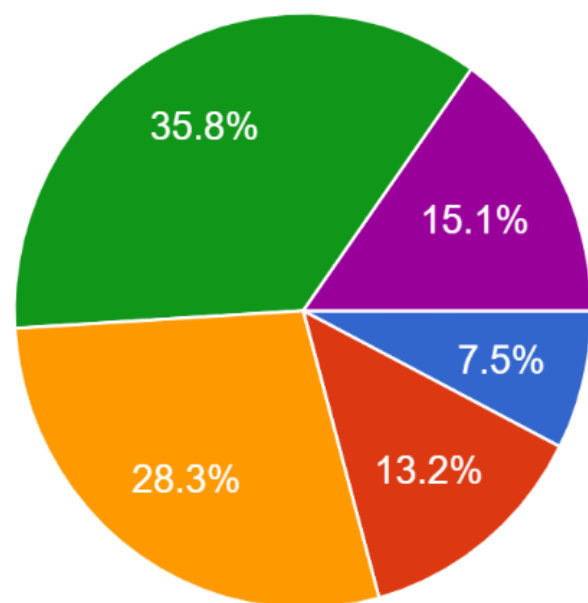


・質問7の回答理由

- ・ 増えた(かなり増えた、やや増えた)
 - ①オンライン授業の準備で時間を費やした。
 - ②課題添削や学生の質問への対応のため。
 - ③学生の出向停止の期間に学生の代わりに実験栽培を行ったため。
 - ④学生が3日に1回の登校となり、その分土日も含めてフルで勤務したため。
 - ⑤オンライン授業に対する準備・対応の担当となったため。
 - ⑥オンラインと対面の両方の授業の準備をしなければならなかったため。
 - ⑦会議が増え、自分の業務や研究が後回しになったため。
 - ⑧オープンキャンパスでのオンライン相談対応のため。

8. 遠隔授業（講義）について（単一回答）

53 件の回答



- 対面授業と比べて良い授業ができた
- 対面授業と比べより良い授業ができたが、対面でのフォローが必要と感じた
- 対面授業と比べて同等の授業ができた
- 対面授業と比べて同等の授業ができたが、対面でのフォローが必要と感じた
- 対面授業と比べて不十分な授業しかできなかった

・質問8の回答理由

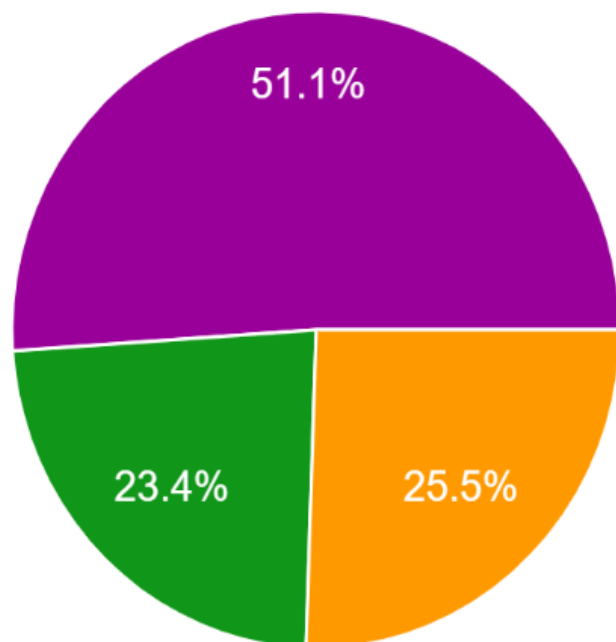
- ・ 対面授業と比べて良い授業ができた(対面でのフォローも必要)
 - ①例年より丁寧な授業資料を作りzoomでの説明も丁寧に行ったので、講義については対面より充実していた。
 - ②zoomで対応したが、学生の反応は悪くなかった。
 - ③講義は遠隔授業と相性がいい。
 - ④チャットやアンケート機能でリアルタイムでの学生の反応を捉えることが出来た。
 - ⑤zoomは学生には意外と評判が良い。
 - ⑥学生との距離が近づく。
 - ⑦ゲスト講師を旅費をかけずに世界中のどこからでも呼べる。
 - ⑧大人数の講義より気軽に発言・質問している。
 - ⑨知識伝達型講義は概ねできた。

・質問8の回答理由

- 対面授業と同等、不十分な授業となった。
 - ①学生の理解度確認が難しい。
 - ②学生の質問へのフィードバックが難しく、授業が一方通行となる。
 - ③顔が見えない中で講義するのはむづかしい。
 - ④学生の様子(反応や胎動)がわからない。
 - ⑤問題に対する感覚やとらえ方を伝えられない。
 - ⑥試験の方法が難しい。
 - ⑦パソコン等機材を使う授業では操作方法の伝達が難しい。
 - ⑧講義を確実に聞いているか不明

9. 遠隔授業（ゼミ、実験、実習）について（単一回答）

47 件の回答



- 対面授業と比べて良い授業ができた
- 対面授業と比べより良い授業ができた
が、対面でのフォローが必要と感じた
- 対面授業と比べて同等の授業ができた
- 対面授業と比べて同等の授業ができた
が、対面でのフォローが必要と感じた
- 対面授業と比べて不十分な授業しかでき
なかった

・質問9の回答理由

・ 対面授業と比べて良い授業ができた(対面でのフォローも必要)

①ゼミは誰でもどこからでも参加できるメリットがあった。

②zoomを小さなグループに分けることで対応できた。

③学生は議論に集中していた。

・ 対面授業と同等、不十分な授業となった。

①遠隔でのゼミの実施は到底不可能である。

②実習・実験での実地見学が全くできなかった。

③ゼミは、仲間づくりの意味もあり、出会えない学生集団は本当に気の毒であった。

④実習は特に理解が不十分のまま終わった。

⑤遠隔では質疑の対応や議論に時間を要し、やりにくい。

⑥黒板を使っての説明等が出来ずに教育効果が薄い。

⑦実習機材の詳細説明が不可能。

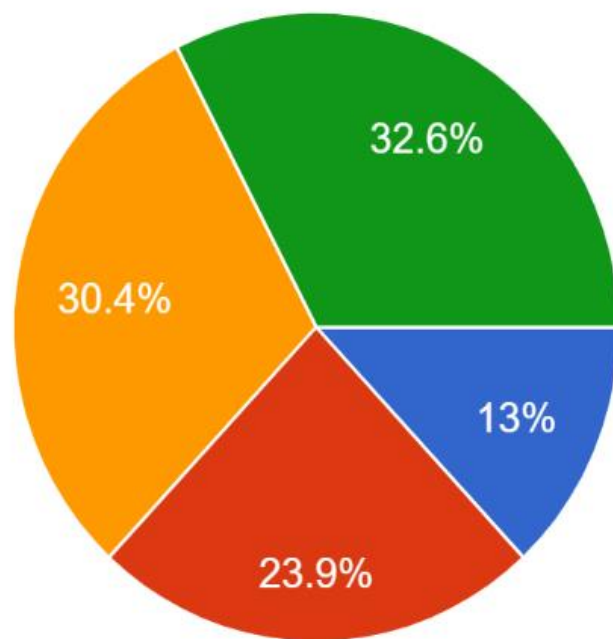
⑧遠隔ではどうにもならないが、必修の単位をとらせるために無理やりやった。

⑨実験は、大学に出てこないと全くできない。

⑩遠隔期間中は、少人数のゼミは開けなかった。

10. 在宅勤務における研究について（単一回答）

46 件の回答



- 従来以上に研究ができた
- 従来並みの研究ができた
- ある程度の研究はできたが従来よりはできていない
- ほとんど研究が出来なかった

・質問10の回答理由

- 研究ができた。(従来以上、従来並み)
 - ①無駄な会議が書面やzoomになったため。
 - ②日ごろから自宅でもできるようにしていたため支障はなかった。
 - ③情報環境は以前と同じだったので支障はなかった。
 - ④電話や来客がないため集中できた。

- 研究できなかった。(従来以下、ほとんど)
 - ①在宅勤務を行っていない。
 - ②論文購読には支障はないが実証分析ができなかった。
 - ③授業による疲労がたまったため。
 - ④授業の準備に時間がとられた。
 - ⑤現地調査ができなかったため。
 - ⑥資料・データを持ち出せないため。
 - ⑦大学院生や学生がいなかったため実験が滞った。
 - ⑧コロナ禍で役職の業務が増えたため。

- | | |
|------------------------------------|-------|
| ①学内における遠隔業務体制のための機器や通信環境の整備 | 回答：28 |
| ②家庭内における遠隔業務体制のための機器や通信環境の整備 | 回答：21 |
| ③対面での教育研究のための学内のスペース確保や感染拡大防止設備の整備 | 回答：32 |
| ④ソーシャルディスタンスに配慮した少人数での授業の実施 | 回答：16 |
| ⑤ソーシャルディスタンスに配慮した教育研究のための教職員の増員 | 回答：19 |

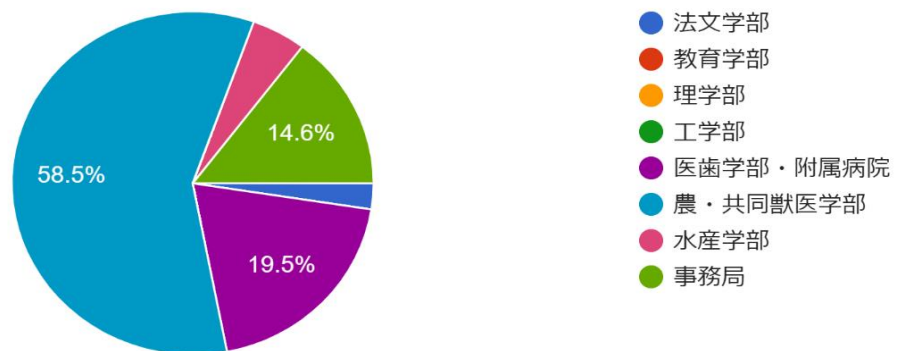
⑥その他

- ・ 早め早めの予防策の実施、提案
- ・ これを機に無駄な会議を減らし、教育と研究にだけ集中できるシステムに大学を組み替えていけば充実化は進む道具や設備の問題ではない。慣例や慣習を手放さない人間の日常行動が大きな原因である。
- ・ 薬品を使うなどの危険作業では、2人以上で行うこととしていたができなくなった
- ・ 半数の人数で対面授業をするときなどに、誰が講義室に来るかや、遠隔で授業を受ける学生への配信が自動や簡単にできるようなシステムと機器の設置があれば良いと思う。それらを全部オーガナイズする手間を考えると、半数ずつの授業というのはなかなか実施できない。
- ・ 学生の反応を高めるにはどうするか。研究が必要。
- ・ 教室の有効活用による対面授業の拡充

I あなたの所属等について(事務職員・技術職員)

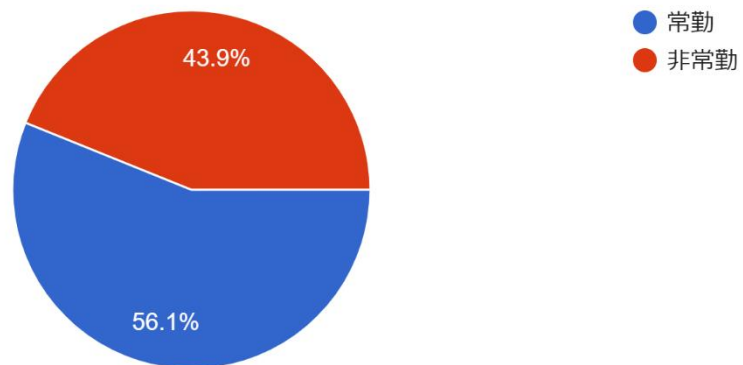
1. 所属 (単一回答)

41 件の回答



2. 雇用形態 (単一回答)

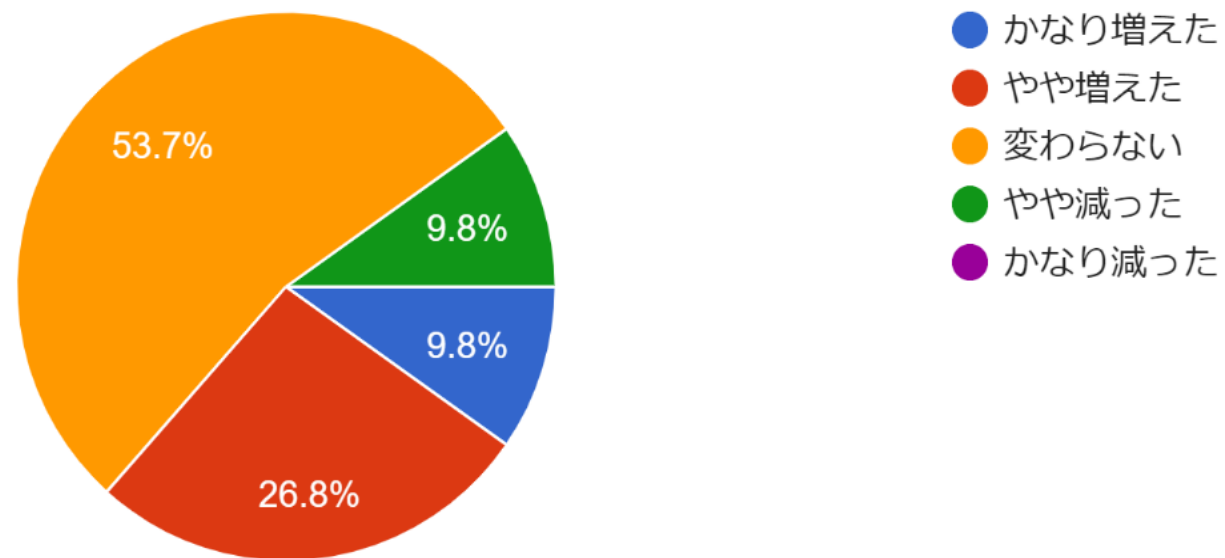
41 件の回答



Ⅱ 業務負担全般について

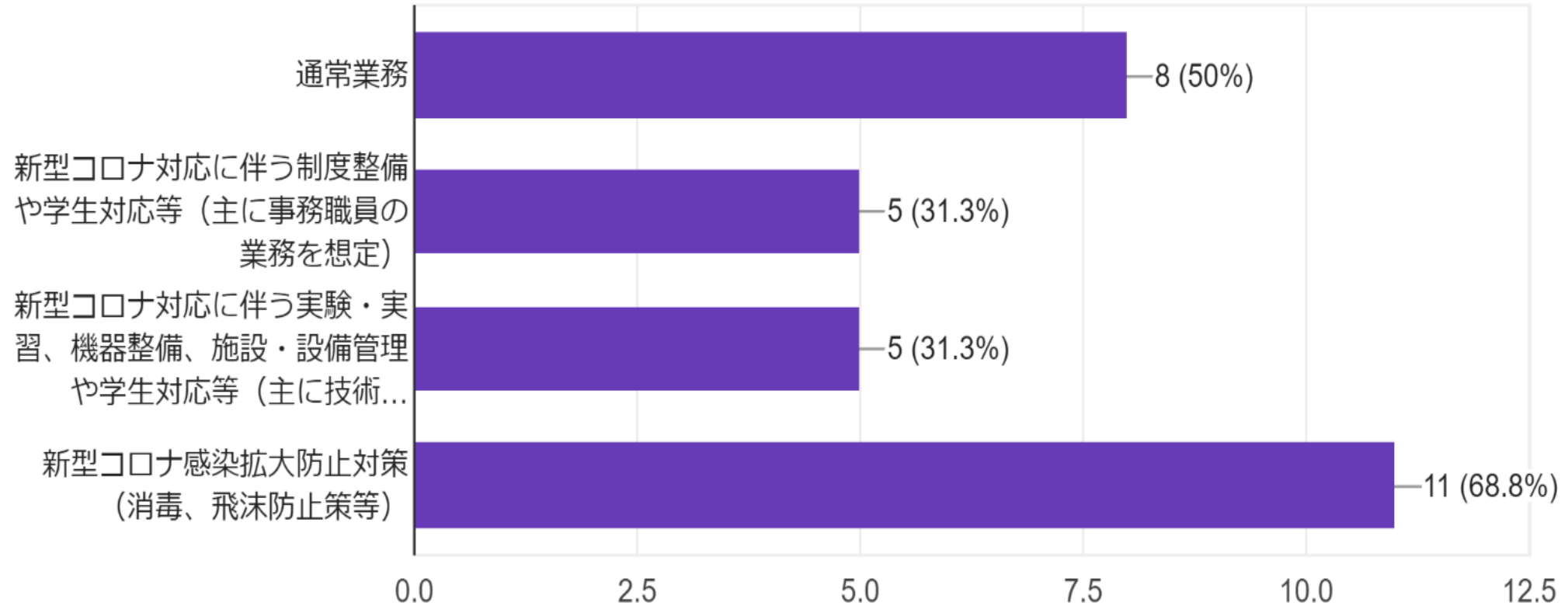
3. 新型コロナウイルス対応下での業務負担は、例年と比べてどうでしたか？（単一回答）

41 件の回答



4. 質問3で「かなり増えた」「やや増えた」と回答...特に増えている内容は何ですか？（複数回答可）

16件の回答

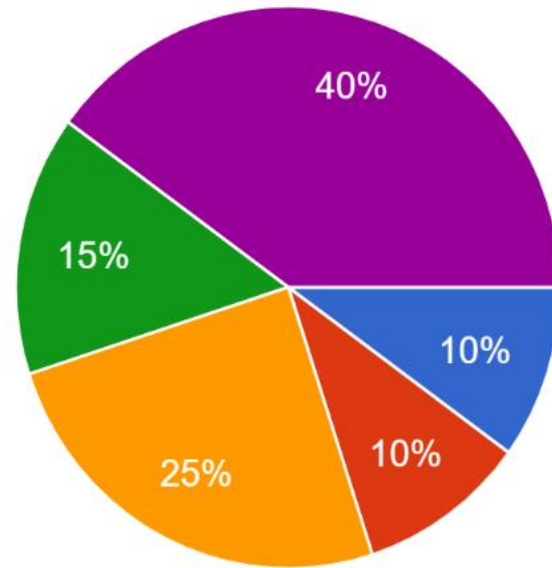


・質問4の回答理由

- ①病院内での安全対策を決めて消毒等行っているが、負担となることはない。
- ②通常業務が増えた。
- ③重症患者が一般病棟に多く出てくるようになった。
- ④新型コロナウイルスの影響で新たな手続きや制度が加わり業務の負担が増えた。
- ⑤実習対応についてのマニュアルづくりや担当教員との確認作業、消毒作業の手続き等業務が増えた。

5. 在宅勤務における業務遂行は例年の通常業務と比べてどうでしたか？（単一回答）

40件の回答



- スムーズに対応できた
- 通常業務と同じとまではいかないが対応できた
- 業務にやや滞りが生じた
- 業務にかなり滞りが生じた
- 在宅勤務はしていない

・質問5の回答理由

・対応できた。(スムーズに対応、通常と同様に対応)

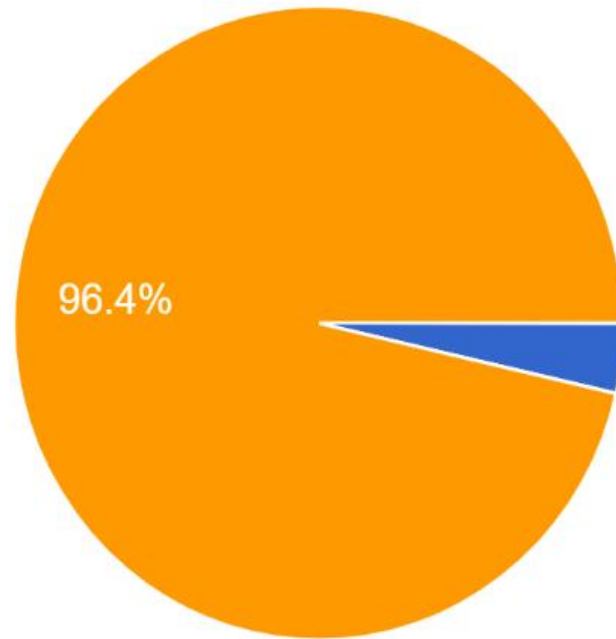
- ①在宅ではできない業務だったが、実習や農産物販売がなくなり業務に支障はなかった。
- ②短期間の在宅勤務や分散勤務で困ることはなかった。
- ③自宅でPC環境が整備されていたため。

・滞りが生じた。(やや滞りが生じた、かなり滞りが生じた)

- ①在宅勤務はパソコンを使っての業務ができないので、資料を持ち込んで自己研修を行った。
- ②職員によってネットワークやPCの環境が整備できていない。
- ③在宅だと資料が足りない。
- ④作業現場が野外で現地でしかできないことが多いため。
- ⑤システム入力や紙媒体での提出物は在宅ではできないため。
- ⑥フィールドワーク等職場でなければできない業務のため。

6. 在宅勤務の環境整備について伺います。(単一回答)

28 件の回答



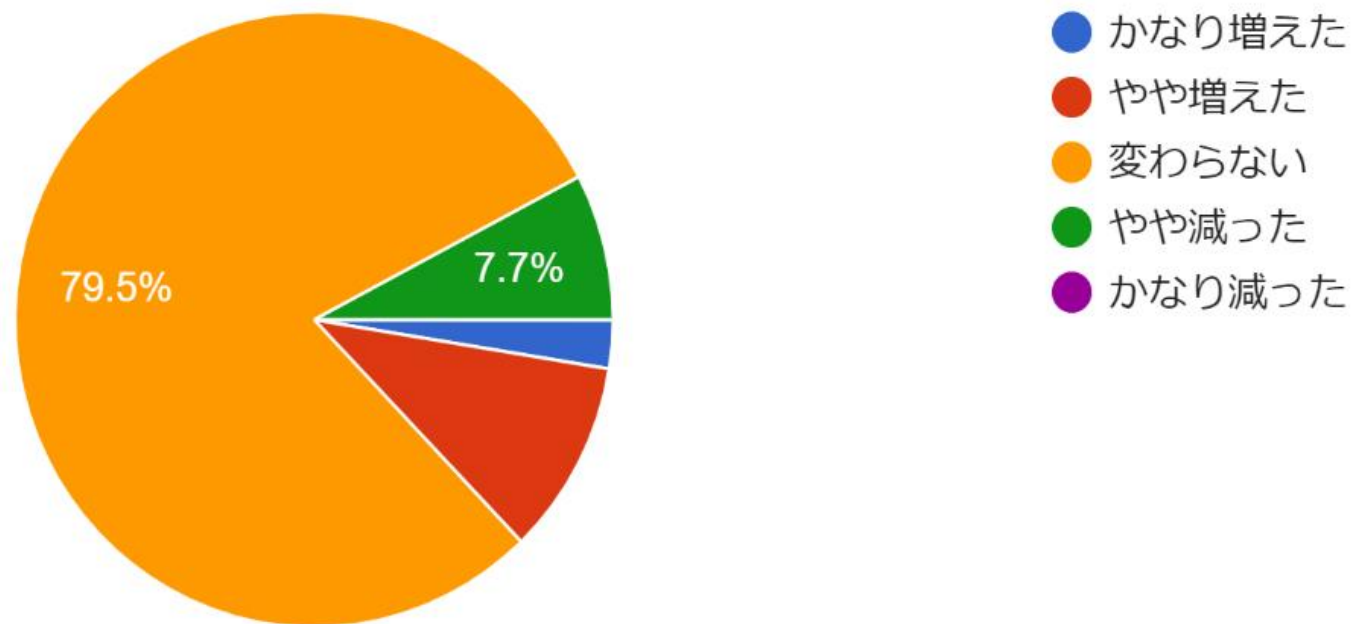
- PCとネットワーク機器の支給・貸与がある
- PCの支給がある
- いずれも私費で準備する(すでにあった場合も含む)

・質問6についての意見

- ①在宅勤務を‘支持’するのであれば必要な機材（もしくはその費用）は、大学側で準備するかもしくは（職員側自己負担であれば）雇用契約や事務機総統にその旨明記するべきである。
- ②今後在宅勤務を推進するのであれば、まず環境整備を行うことが必要。
- ③今後コロナウィルスの状況や新たな感染症に備えて環境整備を進めるべき。

7. 新型コロナ対応及び在宅勤務における時間外・...の通常勤務と比べてどうでしたか？（単一回答）

39 件の回答



・質問7の回答理由

・ 増えた(かなり増えた、やや増えた)

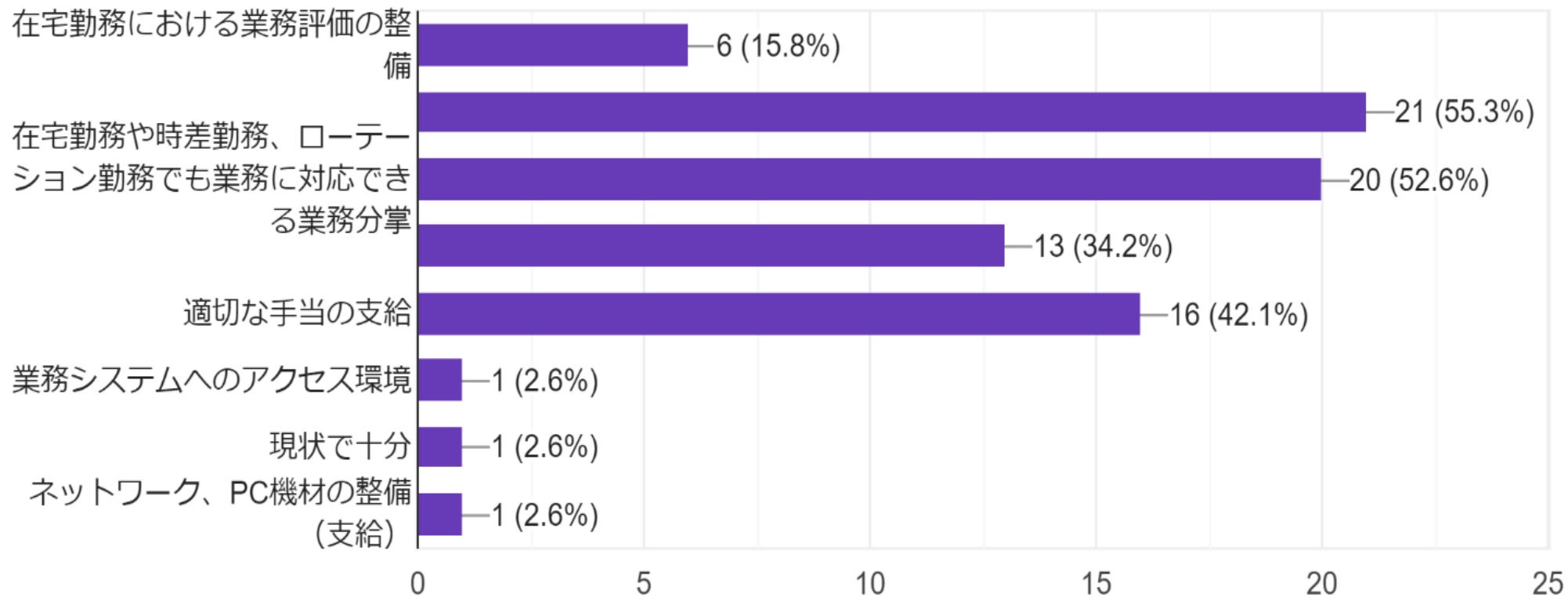
- ① 半分の人数で現場の管理をしなければならなかった。
- ② 今までにない対応・企画の立案に時間を要した。
- ③ ICUからの押し出しが増えた。
- ④ コロナ対応の業務が増えたことと在宅勤務により処理できなかった業務を出勤日にまとめてせざるを得ないため。

・ 変わらない

- ① 短時間勤務のため時間外はない。
- ② コロナ病床でないので特に勤務形態には変化がなかった。
- ③ コロナで増えてしまった仕事もあるがなくなってしまった仕事もあるため。

8. 新型コロナウイルス禍の中でのスムーズな業務のための課題について（複数回答可）

38件の回答



- | | |
|-------------------------------------|-------|
| ①在宅勤務における業務評価の整備 | 回答：6 |
| ②学内での勤務における3密を回避するための環境整備 | 回答：21 |
| ③在宅勤務や時差勤務、ローテーション勤務でも業務に対応できる業務分掌 | 回答：20 |
| ④在宅勤務や時差勤務、ローテーション勤務でも業務に対応できる人員の増員 | 回答：13 |
| ⑤適切な手当の支給 | 回答：16 |
| ⑥その他 | |
| ・業務システムへのアクセス環境 | |
| ・現状で十分 | |
| ・ネットワーク、PC機材の整備（支給） | |

コロナウィルス禍の下での論点(教員)①

- (教育)

- ①遠隔授業のための準備と実施のためにかなりの時間と労力を使っている。
- ②講義については、学生の反応等が見えないということもあるが、一方では、オンラインによるメリットもある。
- ③ゼミ、実験、実習については、遠隔授業では、なかなか困難が多くなじまないという意見が多い。



イ) 講義については、特性を生かして遠隔と対面を組み合わせると教育効果が上がる。(ハイブリッド型授業等)

ロ) ゼミ、実験、実習については、可能な限り対面でやれるように対応する必要がある。



* 時間割上の工夫も必要。

* * 部局ごとではなく、全学で統一した制度を整備すべき。

コロナウィルス禍の下での論点(教員)②

(研究)

- ①授業の準備に追われて、研究の時間がとられている。
- ②オンライン会議により時間が有効に使えた。
- ③文献による研究はできるが、実験や野外実習が難しい。
- ④大学院生と学生が研究室に来れないので実験が困難。
- ⑤データや資料を研究室から持ち帰れない。



- ・ネット環境を強化する一方、研究室等で対面でやれるような方策を考える(PCR検査の強化等)

(その他)

- ・在宅で仕事ができるように自宅のネット環境強化を支援する。

コロナウィルス禍の下での論点(事務職員・技術職員)

- (業務)

- ①リモート会議をする機会が増えてきているが、事務職員・技術職員に全員アカウント取得ができているかどうか確認する必要がある。
- ②在宅勤務を奨励するのであれば、自宅でのネットワーク環境やPCの環境をサポートすべきである。
- ③附属病院においては、コロナ禍で業務の負担が増えている。
- ④禍を契機に業務の在り方を再構築できるように将来構想を立ててほしい。